

市民と市長のまちかどトーク 市長あいさつ及び開催テーマの概要説明（概要）

- 日 時：平成22年11月23日（祝）午後2時00分～午後3時30分
- 場 所：小田原ラスカ
- 参加者：約50名

皆さん、こんにちは。小田原市長の加藤憲一です。「市民と市長のまちかどトーク」にお越しいただきまして、ありがとうございます。

この市長と市民のまちかどトークは、年に2回開催しており、1回目は川東地区のロビンソン小田原店で行い、2回目の今回は中心市街地の小田原ラスカを会場に設け、市民の皆さんが関心のあるテーマ、今後進めていく課題についてご理解いただきたいものを短い時間の中で議論をしていくものである。今回は、「生ごみを資源として考えよう」～生（いき）ごみ小田原プロジェクトについて～をテーマに取り上げた。

市長に就任し、2年半が経過した。市民の皆さんが主役となる取り組みを少しずつ実施しているが、本日ごみをテーマに取り上げたのは、ごみというものが、市民の誰もが必ず生活をしている以上関係があるものだという、私の思いがあるからである。また、今日の社会情勢のなかで環境に配慮した暮らし、まちづくり、地域のなかで循環できるような仕組みを実現できるようにするのがテーマとなっている。環境循環の視点で非常に時期に適ったテーマであり、市の財政に大きく関係のあるテーマである。

小田原市のごみ処理にかかる費用は、およそ30億円である。可燃ごみにかかる費用は22億円、その中の4割は生ごみ、つまり、8億円が生ごみにかかる費用である。収集して、処理した灰を埋めるのではなく、暮らしの手元で循環させて地域の中で活かしていければ、その分の費用は圧縮していく。財政削減策である。

また、市民参画ということで生ごみを資源化することは有効な手段である。

2つの方法がある。1つ目は、段ボールコンポストで堆肥を作る方法である。2つめは、報徳小学校で実験しているが、児童が家庭で集めてくる生ごみを電動式生ごみ処理機に入れて堆肥化していくという方法だ。この方法でできた堆肥を学校菜園に戻し、取れた野菜を児童が食べるという実験をしているが、生ごみを保管してくださるお母さんの手間がかかる。また、生ごみを電動式生ごみ処理機でできた堆肥を畑やプランターに入れて野菜や花を育てるには手間はかかるが、お子さんも一緒になって取り組んでいただきたい。市民の皆さんに参画をしていただいて、初めて成り立つテーマであり、非常に大きな期待ができるテーマでもあることが本日わかっていただけたと思う。

一石数鳥の期待と効果が出るこのテーマを、ぜひ市民の皆さんが主体となる取り組み、象徴的な取り組みとして進めていきたい。また、生ごみが花や緑に置き換わる、健やかな命で安全な食べ物になるという、資源としてしっかり生きていくという循環を作っていきたいと思っている。

段ボールコンポストなどの生ごみを資源化するモデル事業を約1,000件の市民の皆さんに参加していただいていることは、非常に珍しいことである。本日のテーマは、小田原が誇りうる市民の皆さんの挑戦だと思っていただきたい。本日お話をうかがわせていただき、より理解を深めていくための取り組みについてのご提案などをいただきながら、ぜひ皆さんで盛り上げていきたい。

本日はよろしく申し上げます。